

令和3年度 明保小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

心身ともに健康でたくましく、確かな学力と豊かな人間性をもち、ともに支え合いながら変化する社会を主体的に生き抜く児童の育成

- ・健康でたくましい子
- ・進んで考え、最後までやりぬく子
- ・思いやりがあり、誰とでも仲良くする子
- ・ふるさとの人や自然を大切にする子

《合い言葉：元気・やる気・勇気・思いやり》

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- (1) 人間尊重を基盤として、児童・保護者・地域との信頼関係を築く学校づくり
- (2) 教職員としての使命感とチーム力を高め、創意・工夫を生かす学校づくり
- (3) 知・徳・体の調和のとれた発達と協働する力を育む学校づくり
- (4) 学校・家庭・地域の教育力を生かし合う地域とともにある学校づくり
- (5) 安全管理や危機管理への徹底を図り、安心して生活できる学校づくり

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○確かな学力を育成するために、基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等を育む学習指導の充実に努める。
- (2) ○豊かな人間性を育むために「宮っ子心の教育」を推進し、認め励ます教育や多様な体験活動の充実に図る。
- (3) ○健康で安全な生活を送る力を育むために、体力向上や保健教育、食育教育、安全教育に関する指導の充実に図る。
- (4) 地域や社会の一員として、主体的・協働的な課題解決力や社会への参画力の向上を図るとともに、情報化社会で生きる資質・能力の育成を図る。
- (5) 多様な児童への理解と教育的ニーズへの適切な対応を図るために、児童指導や特別支援教育の充実に図る。
- (6) 信頼される教職員として資質・能力の向上を図るとともに、働き方改革を通して業務の効率化を図り、学校としてのチーム力を高める。
- (7) 地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開するとともに、地域協議会と連携し、学校経営の改善に努める。
- (8) 安全で安心して学校生活を送ることができるように、安全管理体制や危機管理体制を確立し、事故防止に努める。

【宮の原地域学校園教育ビジョン】

心豊かで輝く子どもの育成 ～ほめて伸ばす（自己肯定感を高める）～

【重点課題】

- ★基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。（自ら学ぶ児童・生徒の育成）【学力向上部会】
- ★思いやりを高め規範意識の向上を図る。【学校生活適応支援部会】
- ★継続した筋力向上をめざし、健康で安全な生活を営ませる。【健康・体力・食育促進部会】
- ★小中および地域の交流促進を目指し、情報共有化を図る。【交流連携促進部会】
- ★学校事務の効率化・平準化を図り、学校づくりを支援する。【地域学校園事務室部会】

4 教育課程編成の方針

- ・創立148年の歴史と伝統を踏まえ、学校・地域・児童の実態を適切に把握し、特色ある教育課程を編成する。
- ・全職員協力の下、学校経営計画に示された具体策や特色ある学校づくりに関する取組のために必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てていく。
- ・学校教育活動全体を通じた組織的な PDCA サイクルの活性化により教育課程の実施状況を評価し、必要な人的・物的な体制を確保するとともにその改善を図っていく。
- ・教育活動実施時数においては、宇都宮市小中一貫カリキュラムを基準として編成し、1年生は安全上2年生と同様に、予備時数は基礎的・基本的内容の徹底(国・算)を中心に計画的に運用する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

○信頼される教職員集団を築き、地域とともに主体的・協働的な学びを推進する教育活動の推進

【学 習 指 導】

○問題解決に向けて、自ら考え、ともに学び合う児童の育成 ～自己を見つめ、豊かな心でよりよく生きる児童の育成を目指して～

【児 童 生 徒 指 導】

○基本的な生活習慣の確立と自他を尊重する態度の育成 ～「当たり前」を重視した実践～

【健康(体力・保健・食・安全)】

○健康の保持増進や体力づくりに励み、たくましく生きる児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価									
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。 <児童アンケート90%>	○互いの思いや考えを伝え合う場を授業に意図的、効果的に設定し、言語活動の充実を図り、学び合い、高め合う授業の工夫改善を推進する。 ・自分の考えを記録し、自信をもって発言できるよう支援する。 ・日記等、「書く」機会を継続して学習活動に取り入れる。 ・児童が発言したり、考えを友達と伝え合ったり学び合ったりする活動を計画的に学習活動に取り入れる。 ・授業のねらいを明確にして児童に示すとともに、考える時間を確保したり授業形態を工夫したりして、児童が積極的に授業に取り組めるよう支援する。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>96.9%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.6%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>／</td></tr><tr><td>児童</td><td>93.0%</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・授業のねらいを児童に示したり、グループ活動等を効果的に取り入れながら思考を深めさせたりしていけるようにする。 ・授業のめあてを踏まえ、分かったことやできるようになったことなどを実感できるような振り返りの活動を行っていく。		教職員	96.9%	保護者	94.6%	地域住民	／	児童	93.0%
	教職員	96.9%											
保護者	94.6%												
地域住民	／												
児童	93.0%												
A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。 <児童アンケート90%>	○道徳科の授業と全教育活動との関連を図り、思いやりのある豊かな心情を育む。また、エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの手法を取り入れ、仲間意識を高める。 ○異学年や縦割り班による活動を充実させ、互いを認め、大切にすることを育てる。 ・「縦割り班で遊ぼう集会」の複数回の実施 ・「ありがとう集会」の実施 ・縦割り班清掃の実施 ・フラワーロードさわやか集会の実施 ・縦割り班によるなわとび検定の実施 ・正しい言葉遣い ・名前に「さん」をつける。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>91.1%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>児童</td><td>90.5%</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・思いやりと感謝についての生活目標を設定する回数を増やし、児童への意識付けを行う。 ・道徳や学級活動において、構成的エンカウンターやソーシャルスキルを取り入れ、相手を思いやる心や態度を育てる。 ・学級ごとに実態に応じた活動を継続して行い、よりよい人間関係作りと思いやりの心の育成に取り組む。		教職員	100.0%	保護者	91.1%	地域住民	100.0%	児童	90.5%	
教職員	100.0%												
保護者	91.1%												
地域住民	100.0%												
児童	90.5%												

A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童は、きまりやマナーを守って、生活している ＜児童アンケート８５％＞	○生活目標を設定し、目標の掲示や放送による呼びかけを実施するとともに、児童自身が学校生活を振り返る機会をもつことにより、規範意識を高める。 ・「明保小のよい子」に基づいた日常的な指導の充実と生活当番を中心とした全校体制での指導の徹底により、望ましい生活習慣の定着を図る。 ・学習や生活のきまりを定期的に振り返りながら、児童の実態を捉えるとともに、学年に応じて重点的に指導する。 ・学校生活の約束を保護者に周知し、理解と協力を得る。	B	【達成状況】	
			教職員	96.9%
			保護者	91.3%
地域住民	100.0%			
児童	87.8%			
			【次年度の方針】 ・児童の自己チェックをし、達成や改善を意識させていく。 ・あいさつ、廊下の歩行に関しては年間を通して生活目標に記載する。 ・生活目標は毎日朝の会で言い、覚えるようにする。また、帰りの会で振り返りをする。 ・「明保小のよい子」は教室掲示用と同じものを児童にも配付し、曖昧さをなくす。	
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童は、時と場に応じたあいさつをしている ＜保護者アンケート８０％＞	○クラスによる「あいさつ運動」を定期的実施し、児童の意識向上を図るとともに、活動の様子を保護者や地域に周知し、運動への参加協力を求め、活動の拡充を図る。 ○交通指導員や見守り活動団体の方々に感謝の気持ちを表せるよう指導する。また、特に登校指導の機会を利用し、地域の方へ進んで挨拶をできるよう指導する。 ・教職員が率先してあいさつし、児童があいさつする機会を増やす。	A	【達成状況】	
			教職員	84.4%
			保護者	79.8%
			地域住民	71.4%
			児童	92.7%
			【次年度の方針】 ・あいさつの発声練習をし、習慣化を図る。 ・登校指導、下校指導時にあいさつの指導をする。 ・校内あいさつ運動は、クラスでのアイデアを募集し、他のクラスにも広めていく。 ・教職員による差がないようにする。	
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 ＜児童アンケート８５％＞	○自分のめあてや目標をもつ場面を意図的に設定する。 ・振り返りの場面を設定し、あきらめずに粘り強く取り組む姿を推奨する。 ・学年のめあてや学期のめあてを明確にして掲示したり、長期休業前の振り返りカードで振り返ったりする活動を通して、粘り強く取り組めるようにする。	B	【達成状況】	
			教職員	93.8%
			保護者	77.4%
			地域住民	／
			児童	90.0%
			【次年度の方針】 ・キャリアパスポート等を活用し、めあてを明確にさせたり、振り返りの場面を設定して次の目標を立てることにつなげたりすることで、粘り強い取り組みができるよう支援していく。 ・コロナ禍でも行えた行事に関しては、各種たよりやホームページなどで積極的に情報を発信していく。	

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 <児童アンケート90%>	○食育だよりや保健だよりの定期的な発行や「お弁当の日」の実施などにより、家庭で食や健康に関する話合いの機会をもてるよう保護者に働きかける。 ○授業中や休み時間、登下校時など、日常生活場面において、機会をとらえて健康で安全な行動ができるよう全職員で指導する。 ・避難訓練や交通安全教室など、交通や災害に対する安全教育を強化するとともに、「明保小のよい子」を活用して日常生活の中の危険について学年に応じて丁寧に指導する。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.1%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>91.7%</td></tr><tr><td>児童</td><td>93.2%</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・栄養士、養護教諭からの各種たよりの発行を継続し、各学級での授業などでも連携を図り、食や健康に関する指導を充実させる。 ・全職員での指導を継続し、特に感染症防止への意識を高めさせる。 ・避難訓練や交通安全教室など、交通や災害に対する安全教育を強化するとともに、「明保小のよい子」を活用して日常生活の中の危険について学年に応じて丁寧に指導する。	教職員	100.0%	保護者	90.1%	地域住民	91.7%	児童	93.2%
教職員	100.0%									
保護者	90.1%									
地域住民	91.7%									
児童	93.2%									
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 <児童アンケート85%>	○社会や地域の人々の役立つことの大切さを理解し、社会に貢献しようとする態度を育てる。 ・振り返りの場面を設定し、あきらめずに粘り強く取り組む姿を推奨するとともに、社会に貢献しようとする態度を育てる。 ○生活科や総合で、社会との関わりについて学習したことを実際の生活に生かそうとする態度を育てる。 ・道徳科や学級活動等を通して、自他の良さが認められる場面を設定し、児童の自己肯定感や自己有用感を高める。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>93.8%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>77.4%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>／</td></tr><tr><td>児童</td><td>90.0%</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・道徳科の授業を中心に、目標を立て、希望と勇気を持ち、粘り強くやり抜こうとする意欲を高めていく。 ・互いのよさを認め合う場を意図的に設定し、自己肯定感を高められるようにする。	教職員	93.8%	保護者	77.4%	地域住民	／	児童	90.0%
教職員	93.8%									
保護者	77.4%									
地域住民	／									
児童	90.0%									
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。 <児童アンケート90%>	○積極的に英語を使ってコミュニケーションを図るよう授業の工夫・改善を図る。 ・自分の思いや考えを伝え合う場を授業に意図的、効果的に設定し、外国語活動・外国語科の充実を図る。 ・英語を使つての学習活動を通し、伝え合う楽しさや喜びを十分味わわせ、コミュニケーション力や書く力の向上を図る。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>93.8%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>／</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>／</td></tr><tr><td>児童</td><td>／</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・ALTと連携し、授業の充実を図りながら、様々なコミュニケーションの方法を取り入れていけるようにする。	教職員	93.8%	保護者	／	地域住民	／	児童	／
教職員	93.8%									
保護者	／									
地域住民	／									
児童	／									

A 9 児童は、宇都宮の良さを 知っている。 【数値指標】 私は、宇都宮の良さを知っ ている。 <児童アンケート85%>	○社会科・総合的な学習の時間などに おいて、宇都宮や地域の良さについ て学習する機会を意図的に設定す る。 ・宇都宮や地域の良さについて、歴史 や特産物などの学習を通して、自分 の思いや考えを伝え合う場を意図的 に設定し、授業の充実を図る。 ・宇都宮市のイベントや行事などのお 知らせを配付する際には、宇都宮の 良さを知らせるようにする。	A 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>90.6%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>63.9%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>／</td></tr><tr><td>児童</td><td>82.6%</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・社会科・総合的な学習の時間・道徳科など で宇都宮や地域について学習する際に、 良さが理解できるよう、授業の充実を図 っていく。 ・市に関連する資料やイベント等のお知ら せを配付する際には、市の良さや特性を 積極的に児童に伝える。	教職員	90.6%	保護者	63.9%	地域住民	／	児童	82.6%
教職員	90.6%									
保護者	63.9%									
地域住民	／									
児童	82.6%									
A10 児童は、ICT機器や 図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 児童は、パソコンや図書等 を学習に活用している。 <児童アンケート85%>	○国語科や理科・社会科・総合的な学 習の時間などにおいて、ICT機器 や図書等を学習に活用する機会を意 図的に設定する。 ・調べたりまとめたりする活動におい て、コンピュータや図書等を効果的 に活用し、多角的な学習の充実を図 る。 ・プログラミング教育において、児童 にパソコン活用に対する必要性の意 識を高めていく。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>96.9%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>84.6%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>／</td></tr><tr><td>児童</td><td>93.2%</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・様々な学習の場において、ICT機器や図 書資料等の積極的な活用を促していくと ともに、コンピュータと図書との使い分 けを指導し、有効な活用ができるよう支 援していく。	教職員	96.9%	保護者	84.6%	地域住民	／	児童	93.2%
教職員	96.9%									
保護者	84.6%									
地域住民	／									
児童	93.2%									
A11 児童は、高齢者に対す る感謝やいたわりの心 をもっている。 【数値指標】 児童は、誰に対しても、思 いやりの心をもって優しく 接している。 <地域アンケート90%>	○新型コロナウイルス感染防止対策に 配慮しながら高齢者との「ふれあい 学習」、「感謝の集い」等を実施し、 高齢者を敬う気持ちをもたせる。 ・交通指導員さんや安全ボランティア さん等への挨拶を進んで行うよう指 導する。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>91.1%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>児童</td><td>90.5%</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・地域の方に対する感謝の念を道徳や感謝 の集いにおいて取り上げ、集会や手紙等 で、気持ちを表現できるようにする。 ・今年度行えなかった「ふれあい学習」や「感 謝の集い」などを実践する。 ・事前に行事の意味をしっかりと理解させ、高 齢者を敬う気持ちを高めていく。	教職員	100.0%	保護者	91.1%	地域住民	100.0%	児童	90.5%
教職員	100.0%									
保護者	91.1%									
地域住民	100.0%									
児童	90.5%									
A12 児童は、「持続可能な 社会」について、関心を もっている。 【数値指標】 児童は、環境問題や防災等 の「持続可能な社会」につい て、関心をもっている。 <児童アンケート85%>	○生活科や理科・社会科・総合的な学 習の時間などにおいて、環境問題や 防災等の「持続可能な社会」につい て、意図的に取り上げ、正しい知識 と判断力を身に付けさせる。 ・調べたり探究したりする活動におい て、自分の思いや考えを伝え合う場 を意図的に設定し、学習活動の充実 を図る。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>68.8%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>／</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>／</td></tr><tr><td>児童</td><td>90.7%</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・様々な教科で「持続可能な社会」につい て学ぶ場を計画的に位置付け、主体的な学 びを支援していく。	教職員	68.8%	保護者	／	地域住民	／	児童	90.7%
教職員	68.8%									
保護者	／									
地域住民	／									
児童	90.7%									

目
指
す
学
校
の
姿

A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。 <教職員アンケート90%>	○学級間の情報交換を密にし、広く児童理解に努め、情報を共有しながら、組織的に児童の教育に当たる。 ・ケース会議を実施する。 ・朝の打ち合わせや職員会議において、情報共有を図る。 ・必要に応じて専門機関との連携を図る。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>／</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>／</td></tr><tr><td>児童</td><td>／</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・配慮児童（いじめ、怪我、トラブル、保護者の要望、特性）の情報は全体共有する。 ・支援や機関連携の方向性については都度協議する。その際、担任の見立てや児童・家庭・保護者の様子を用意する。	教職員	100.0%	保護者	／	地域住民	／	児童	／
教職員	100.0%									
保護者	／									
地域住民	／									
児童	／									
A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる <児童アンケート90%>	○「いじめ防止基本方針」に則り、教育活動全体を通して「いじめは決して許されない」ことを理解させるとともに、「いじめゼロ集会」等、いじめ防止に向けての児童の主体的な取組を支援する。また、学校だよりや学年だより、ホームページなどを通して、学校の取組を発信していく。 ・「いじめゼロ宣言」を児童一人一人が作成し、学級で話し合うことにより、いじめ防止に向けた児童の意識高揚を図る。 ・各種アンケートの結果やQ-Uの結果を生かしたり道徳の授業を通じていじめの未然防止に努めたりする。 ・スマートフォンや携帯電話の使い方等については、各学級、学年において実態に応じた指導を行う。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>79.1%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>児童</td><td>96.2%</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・現行のいじめアンケートの内容を見直す ・「いじめゼロ標語」に加え「私のいじめゼロ宣言（自分に向けて）」を作成する。 ・いじめゼロ月間後、各種便りでいじめゼロ啓発の取組結果やアンケート内容等を保護者に配付する。 ・配慮が必要な児童のいる学級には、学年やブロックの教員が教室に入り、様子を見る。	教職員	100.0%	保護者	79.1%	地域住民	100.0%	児童	96.2%
教職員	100.0%									
保護者	79.1%									
地域住民	100.0%									
児童	96.2%									
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。 <児童アンケート90%>	○ケース会議や教育相談の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関との連携を密に行いながら、個に応じた指導を展開する。 ・児童一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。	B （達成状況） <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>92.3%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>／</td></tr><tr><td>児童</td><td>95.0%</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・一人一役の仕事（当番）、係、得意分野を生かせる場などを意図的に作る。	教職員	100.0%	保護者	92.3%	地域住民	／	児童	95.0%
教職員	100.0%									
保護者	92.3%									
地域住民	／									
児童	95.0%									
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。 <教職員アンケート90%>	○専門機関との情報交換を密にし、広く児童理解に努め、情報を共有しながら、組織的に児童の教育に当たる。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>／</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>／</td></tr><tr><td>児童</td><td>／</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・特性や配慮が必要な児童、家庭への理解と対応をするための研修を実施する。	教職員	100.0%	保護者	／	地域住民	／	児童	／
教職員	100.0%									
保護者	／									
地域住民	／									
児童	／									

A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 私は、今の学校が好きです。 <児童アンケート85%>	○「ほめて伸ばす」指導を心掛け、児童一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。 ・学校行事や児童会活動、係活動において児童が主体的に活動できる場を多く設定する。 ・縦割り班活動を効果的に実施し、異学年児童同士の交流機会を充実させる。 ・担任と児童、児童同士の良好な関係を築くため、長い休み時間（明保タイム）を活用し、交流の機会を確保する。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>95.2%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>児童</td><td>91.6%</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・縦割り班活動を通して、良好な人間関係づくりに努める、 ・児童一人一人が主体的に活躍する場を設け、良さを認め、褒める活動を継続し、自己存在感や自己肯定感が伸ばせるようにする。 ・児童会主催の活動を適宜実施すると共に、児童同士や児童と担任間の繋がりが強化されるような取組を実践していく。	教職員	100.0%	保護者	95.2%	地域住民	100.0%	児童	91.6%
教職員	100.0%									
保護者	95.2%									
地域住民	100.0%									
児童	91.6%									
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 先生方の授業は分りやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。 <児童アンケート90%>	○分かる授業を展開するため、ねらいの明確化、板書・発問の工夫、ノート指導の充実を図る。 ・各種学習調査の結果を分析し、児童の実態に即した学習指導を行う。 ・視聴覚教材を効果的に活用し、学習内容の理解を深める。 ・高学年の算数において、学習内容に応じてT Tや習熟度別学習を効果的に実施するなど、学習形態の工夫を図り、個に応じた指導を行う。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>89.5%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>／</td></tr><tr><td>児童</td><td>96.4%</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・学力向上に向け、個に応じたきめ細やかな指導を心掛けていく。 ・学校課題研究や一人一授業の実践を通して、各教員の授業力の向上を図る。	教職員	100.0%	保護者	89.5%	地域住民	／	児童	96.4%
教職員	100.0%									
保護者	89.5%									
地域住民	／									
児童	96.4%									
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 <教職員アンケート90%>	・関係教員との連携を深めるため、時間割を調整し、情報共有、意見交換の時間を確保する。 ・司書教諭や教科主任、特別支援教育コーディネーター、管理職等によるコーディネートを円滑に行い、各スタッフの専門性が十分に生かされるようにする。 ・校務分掌や学習指導、児童指導等において、O J Tを実施していく。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>96.9%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>／</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>／</td></tr><tr><td>児童</td><td>／</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・校務分掌の主務者を中心に、それぞれの仕事の役割や責任を明確にして、業務に当たっていく。 ・学校業務に関して、同僚に対する気配りをしながら、相互に協力して業務を進める。	教職員	96.9%	保護者	／	地域住民	／	児童	／
教職員	96.9%									
保護者	／									
地域住民	／									
児童	／									
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 <教職員アンケート90%>	・学校図書館司書業務嘱託員やALT、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー、学校業務嘱託員、スクールサポートスタッフ、I C T支援員等、専門性を有する職員による学習支援、生活支援、環境整備を充実させることにより、教員が児童と向き合う時間の拡充を図る。 ・リフレッシュデーを毎月設定し、計画的な業務遂行に努める。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>／</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>／</td></tr><tr><td>児童</td><td>／</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・電子掲示板による連絡や会議資料のデジタル化を推進し、業務の効率化を図る。 ・優先順位を付けて業務に当たるなど、個々の教職員の取組を継続する。 ・学校の取組を情報発信して、保護者や地域の理解を得る。	教職員	100.0%	保護者	／	地域住民	／	児童	／
教職員	100.0%									
保護者	／									
地域住民	／									
児童	／									

A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 <保護者アンケート80%>	○地域学校園での「あいさつ運動」の充実を図る。 ○図書館や食育等、各種学校園だよりの発行や児童生徒指導の情報交換等により、小中学校間の連携を深める。 ・校内における「小中一貫教育研修」を定期的実施し、各部の活動方針や指導内容を共有し、実践につなげる。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>76.4%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>88.9%</td></tr><tr><td>児童</td><td>89.8%</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・「小中一貫教育・地域学校園」の取組を各種たよりに取り上げて情報発信していく。 ・地域学校園の各部会での決定事項を教職員間で共通理解を図り、指導に活かす。	教職員	100.0%	保護者	76.4%	地域住民	88.9%	児童	89.8%
教職員	100.0%									
保護者	76.4%									
地域住民	88.9%									
児童	89.8%									
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 <地域アンケート90%>	・地域コーディネーターとの協力体制を整え、地域教材や企業、地域人材、学校支援ボランティアなどの地域の教育力を生かした教育活動を計画的に実施する。 ・地域の歴史や施設調べ、安全マップ作成など、地域を題材とした学習を充実させることで、地域への関心を高める。 ・生活科・社会科・総合的な学習の時間などにおいて、地域の施設や地域人材を活用した学習を積極的に実施する。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.1%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>児童</td><td>91.9%</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・地域協議会やPTA理事会において学校からの情報を発信し、また地域や保護者の意見を吸い上げ、協力体制を整備していく。	教職員	100.0%	保護者	90.1%	地域住民	100.0%	児童	91.9%
教職員	100.0%									
保護者	90.1%									
地域住民	100.0%									
児童	91.9%									
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。 <児童アンケート90%>	・高齢者とのふれあい学習や学習ボランティアとの交流をとおり、地域に親しみをもたせる。 ・地域の行事を積極的に児童に紹介したり、地域の話題を学級内で取り上げたりすることで、行事参加へ向け児童の意欲を高める。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.1%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>児童</td><td>91.9%</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・地域や企業等と連携・協力して行った教育活動を保護者・地域にも積極的に情報発信していく。 ・地域の人材の確保や発掘を行い、授業を充実させられるよう計画・連絡・調整していく。	教職員	100.0%	保護者	90.1%	地域住民	100.0%	児童	91.9%
教職員	100.0%									
保護者	90.1%									
地域住民	100.0%									
児童	91.9%									

本校の特色・課題等	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 ＜保護者アンケート90％＞	・学習や生活の意欲向上を図り、豊かな情操を養うため、校舎内外の整備に努め、校内各所の掲示板を計画的に活用する。 ・毎月の安全点検を十分に行い、児童の安全な生活のため、補修、修繕を速やかに行う。 ・日頃から教職員で、学校環境に目を配り、改善を図っていく。 ・各種学校の行事を実施する際には、来校された方々の安全にも配慮するなど、適切な環境づくりに努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100.0％</td></tr><tr><td>保護者</td><td>89.2％</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0％</td></tr><tr><td>児童</td><td>／</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・日頃から教職員で、学校環境、学校周辺の環境に目を配り、変化を教職員で共有し改善を図っていく。 ・毎月の安全点検を十分に行い、児童及びその他の来校者の安全のため、補修、修繕を速やかに行う。 ・多くの方が来校する学校行事では、感染症対策等を重点に、いろいろな立場での動線を考え計画に反映し、安全対策をより充実させていく。	教職員	100.0％	保護者	89.2％	地域住民	100.0％	児童	／
	教職員	100.0％										
	保護者	89.2％										
	地域住民	100.0％										
児童	／											
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。 ＜児童アンケート90％＞	○国語科や理科・社会科・総合的な学習の時間などにおいて、ICT機器や図書等を学習に活用する機会を意図的に設定する。 ・調べたり探究したりする活動において、コンピュータや図書等を効果的に活用したり、図書館司書と連携したりして学習活動の充実を図る。 ・1人1台端末を活用した授業やオンライン家庭学習の整備をする。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>96.9％</td></tr><tr><td>保護者</td><td>84.6％</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>／</td></tr><tr><td>児童</td><td>93.2％</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・授業や家庭学習において、一人一台端末を有効に活用していけるよう、各教員の指導力向上を図る。	教職員	96.9％	保護者	84.6％	地域住民	／	児童	93.2％	
教職員	96.9％											
保護者	84.6％											
地域住民	／											
児童	93.2％											
B1 教職員は、学校課題に関する研究に主体的に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員は、主体的に授業研究に取り組み、指導の工夫改善に努めている。 ＜教職員アンケート90％＞	・学校課題に基づいて、研究のねらいを明確にしながら協働的に研究を進める。 ・一人一授業を公開し、児童の学びの姿を参観し合い、指導法について意見を交わすことによって授業改善に努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100.0％</td></tr><tr><td>保護者</td><td>／</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>／</td></tr><tr><td>児童</td><td>／</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・学校課題研究や一人一授業を生かした校内研修を継続することで、各教員が主体的に研究に取り組んでいけるようにする。	教職員	100.0％	保護者	／	地域住民	／	児童	／	
教職員	100.0％											
保護者	／											
地域住民	／											
児童	／											
B2 読書の習慣化を図る。 【数値指標】 児童は、本をよく読んだり、調べる学習などで本を使ったりしている。 ＜児童アンケート90％＞	・朝の活動（月・水・木曜日）を読書や読み聞かせの時間とし、進んで本に親しむ態度を養う。 ・「クレヨンの会」による読み聞かせや、図書委員会による読み聞かせや良書紹介で読書への関心を高め、読書の幅を広める。 ・始業時間前に図書室を開館するとともに、読書ノートを活用し、読書指導の充実を図る。	A	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>96.9％</td></tr><tr><td>保護者</td><td>65.1％</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>／</td></tr><tr><td>児童</td><td>79.6％</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・読み聞かせ等を引き続き実施し、児童が本に親しめるようにする。 ・調べ学習での本の活用については、ICTとの使い分けを指導していく。	教職員	96.9％	保護者	65.1％	地域住民	／	児童	79.6％	
教職員	96.9％											
保護者	65.1％											
地域住民	／											
児童	79.6％											

	B3 家庭学習の習慣化を図る。 【数値指標】 児童は、宿題や家庭学習を忘れずにやっている。 <児童アンケート85%>	・「家庭学習の進め方」を活用し、発達段階に応じた家庭学習の内容と方法を具体的に指導する。 ・「家庭学習強化週間」を設定し、家庭学習の状況を振り返らせ、認め励ますことで学習意欲を高める。また、保護者の協力を得ながら、家庭での学習習慣の定着を図っていく。	B	【達成状況】	
				教職員	100.0%
				保護者	93.0%
				地域住民	／
				児童	／
				【次年度の方針】 ・家庭学習の大切さや進め方を児童や保護者に周知し、年3回の「家庭学習強化週間」を継続することで、家庭学習の習慣化を図っていく。	

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・28項目中23項目で数値指標を達成することができた。
- ・児童の評価では、B2「児童は、本をよく読んだり、調べる学習などで本を使ったりしている。」の項目を除き、27項目において82%以上の児童から肯定的評価を得ており、児童の自己肯定感や自己有用感は比較的高い水準を維持していると思われる。
- ・児童、地域住民、保護者、教職員の肯定的回答状況から、児童は概ね落ち着いて生活し、学習への取組状況も良好であるとうかがえる。児童の実態を詳しく分析し、実態に即した指導・支援を継続することで、更なる改善を図っていききたい。
- A2「児童生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」の項目については、全ての肯定的回答の割合が昨年よりもアップした。今後とも道德の時間を核として思いやりの心を育むとともに、異学年や縦割り班による活動を充実させ、互いを認め大切にする心を育てていきたい。
- A9「児童は、宇都宮の良さを知っている。」の児童、保護者、教職員の肯定的回答の割合は、全てにおいて前年度の割合を上回った。今後も宇都宮や地域について学習する際に、良さや特性が理解できるよう授業の充実を図っていくとともに、市のイベントや行事のお知らせを配付する際に、目的や意義も知らせていきたい。
- A17「学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」の児童、地域住民、保護者、教職員の肯定的回答の割合は、すべてにおいて市小学校全体の平均を上回った。今後も、縦割り班活動や児童会活動など、人と関わる力を育てるとともに、教師自身も児童に寄り添う指導や支援の充実を図っていききたい。
- A18「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。」の児童、保護者、教職員の肯定的回答の割合は、すべてにおいて市小学校全体の平均を上回った。今後も、各種学習調査の結果を十分検討し、児童の実態に即した指導内容を工夫していくとともに、成就感や達成感が味わえるような授業を充実させていきたい。
- A22「学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。」A23「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。」については、肯定的回答の割合の全てが市小学校全体の平均を大きく上回った。また、児童、地域住民、保護者の割合も昨年よりアップした。今後も新型コロナウイルス感染症対策を講じながら地域の教育力を生かした特色ある教育活動を維持するとともに、地域と連携して地域の行事への児童の参加意欲を高めていきたい。また、今年度実施できなかった高齢者とのふれあい学習や各種学習ボランティアとの交流を実施・発展していくよう努力していききたい。
- ・A4「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の項目については、児童の肯定的回答の割合が昨年よりアップしたが、保護者・地域住民、教職員の肯定的回答の割合が下がってしまった。特に保護者や地域の方々の肯定的回答の割合が低いので、学校での指導を強化していくとともに、校内での取組を引き続き学校だよりや学年だより、ホームページ等で情報発信し保護者や地域の方々にも協力を呼び掛けていきたい。
- ・A14「教職員はいじめが許されない行為であることを指導している。」の項目については、地域や教職員の肯定的回答の割合は、市小学校全体の平均を上回ったが、保護者や児童はやや下回った。今後も、アンケートや教育相談、日常の児童観察等を十分に行い、全職員でいじめの未然防止、早期発見、早期解決に努めていくとともに、本校のいじめ対策の取組や活動の様子をホームページや学年だより等を通じ、積極的に発信していく。
- ・B2「児童は、本をよく読んだり、調べる学習などで本を使ったりしている。」児童、教職員の肯定的回答の割合は、前年度を下回った。特に児童の肯定的回答が下がった原因としては、本で調べる学習活動よりも、タブレット端末による調べ学習が授業で多く行われようになったことが考えられる。今後は、調べ学習での本の活用については、ICTとの使い分けを適切に指導していくとともに、本に親しむ時間も十分確保していききたい。また、質問項目の見直しも必要である。

7 学校関係者評価

A4について

- ・挨拶はしっかりしなければと思っていても苦手な児童もいるかと思う。強制するのではなく、こちらから積極的に挨拶を繰り返していれば、きちんとできるようになった児童もいる。
- ・恥ずかしいという気持ちからなかなか大きな声で挨拶ができない児童がいるが、本当は、挨拶が上手だと思う。
- ・挨拶、躰、道德などは、家庭で教育することが妥当ではないかと考える。各家庭でいろいろな事情があるかと思われる。

が、できる限り家庭内、家族間の会話の時間をもってほしいと考える。機会があれば学校の方からも伝えてほしい。また、朝は、保護者も子どもたちを気持ちよく送り出してほしい。

- ・児童の挨拶に関する評価は、学校側とボランティア活動をしている側とで差があるのではないかな。
- ・挨拶の声がよく出ない児童は、朝起床してから登校までの時間が少なく、心がまだ「陽」に転じていないため声が出にくい体であると考えられる。放課後など、校内で下校しようとしている児童と顔をよく合わせるが、児童のほとんどは、とても明るく積極的に挨拶をしている。
- ・挨拶をして返してくれるのは、低学年の児童が多く、高学年になるほど反応を示してくれない。それは、恥ずかしさや照れ臭いという感情が芽生えてきているからかもしれない。日常生活の中で、教職員や保護者が率先して挨拶をして、児童が応えて挨拶する。これを習慣化することで、児童から進んで挨拶をすることができるようになると思う。

A5, A7について

- ・学校は ON、家は OFF という児童のパターンが保護者に伝わっていないと考えられる。

A9 について

- ・保護者も普段の生活の中で、児童に宇都宮の良いところを伝えてほしい。食材や建設、住みやすさなど、良いところが市にはたくさんある。
- ・イベントや行事などの中止が多く、宇都宮の良さを知る機会が減ってしまった。地域やボランティアの方々も学校に出向く機会が減り、授業にも影響があったと思う。

A14, A15 について

- ・いじめや不登校に関する項目は、児童の回答が 100%にならないと達成できたといい難いので、引き続き取組を行ってほしい。

A22・A23 について

- ・今年度は、地域行事が中止になることが多く、一時期学校内でのボランティア活動も制限されてしまった。地域連携教員との協力体制をさらに整備していきたい。

B2 について

- ・読書の習慣は学校だけでなく、各家庭での取組が必要かと思う。読み聞かせも、各家庭で毎日続けると自然に本に対して関心が出てくると思う。

○全体的には%が良く学校や地域・児童・家庭の連携が良くとれていると思われる。また、先生方の熱心な指導を感じる。これからも学校や児童が元気で活気にあふれるよう委員の 1 人として協力していきたい。

○地域と連携して学校経営を進めようという姿勢がはっきりとしており、評価できる。

- ・保護者がもっと積極的に地域の諸活動に参画するような意識の醸成をしてほしい。
- ・引き続き、積極的に広報活動を進めていってほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、学習活動や学校行事などが縮小・削減されたにもかかわらず、児童の自己評価は、全体的に高い結果となった。今後も、児童が主体的に活動できる場を意図的・計画的に設定し、取組を工夫していくとともに、個に応じた支援・指導を充実させることで児童の自己肯定感や自己有用感を高めていく。
- ・縦割り班活動や児童会活動の実践を通して、良好な人間関係づくりに努め、児童一人一人が自己実現の喜びを実感できる学級経営を推進する。
- ・明保タイムや児童会主催の活動を拡充させ、主体的に人と関わる力やクラスや学年・学校としてもまとまりを育ていけるような取組を推進する。
- ・次年度も各種便りの発行や学校ホームページ等を通して積極的に情報を発信し、学校の取組を理解していただくとともに家庭や地域と連携を図り、協力や支援を得られるように努めていく。

【学習指導】

○自分の考えや思いを明確にもち、分かりやすく聞き手に伝えたり、相手の意見をしっかり聞いたりしながら学びを高めていける集団づくりの育成に努める。

○家庭学習の充実・習慣化を図るため、「家庭学習強化週間」を年 3 回設け保護者に協力を求める。

- ・高学年において教科担任制を進め、児童の授業への意欲や専門性を高めることができるようにする。
- ・校内研修を通して重点目標の共通理解を図り、授業の実践・公開をするとともに自己研修に積極的に取り組み、教職員としての資質・能力や指導力の向上に努めていく。

【児童指導】

○「進んで挨拶をする」望ましい態度を更に身に付けていけるよう、児童の主体的な取組を積極的に支援し、挨拶運動等の活動を活性化していく。また、家庭や地域にも学校の取組を伝え、連携して支援ができるよう協力を求める。

○「いじめ問題」への対応については、いじめ防止に向けた児童の創意ある主体的な活動を実現できるよう今後も支援していくとともに、いじめの早期解決に向けた学校体制の在り方を含め、学校の取組を積極的に保護者や地域に伝え、学校の信頼をより高められるよう努めたい。

- ・授業参観及び土曜授業での学校公開や各種だより等の発行などを通し、積極的に家庭や地域に学校の情報を発信していくことで、引き続き、学校の教育活動についての理解を得られるようにしていきたい。

【健康（体力・保健・食育・安全）】

- ・「元気っ子健康体力チェック」の結果を基に、教科体育において十分な運動量を確保するとともに指導法を工夫し、個々の運動への関心を高めるとともに体力の向上に努める。

○水泳、鉄棒、縄跳びなどのがんばりカードの活用や健康教育・食育に関わる便りの発行やイベントの実施など、地域学校園共通の取組を次年度も継続させていく。